授業実践カード　主体的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成のために！

1学年［　いろであそぼう　］(1/2)

1　目標

○　色の英語表現を聴いたり言ったりして慣れ親しもうとする。

2　展開

Warming up

毎回「あいさつ」から始めた。単なるリピートで終わらせないように，児童一人一人とあいさつをした。

○　担任とあいさつをする。

Good morning.

How are you?

I'm fine.Thank you,and you?

色の学習であることを伝えた。その後，色のゲームをすることも伝え，必然性をもたせた。

Main Activity

Today's Goal

「いろのいいかたをしろう」提示

担任が，色の発音を「一色ずつ」「ランダム」など繰り返して聴かせ発音させた。

Today's Ward

red,pink,yellow,blue,green,purple,black,white,brown,orange のカラーカード提示

Game

○　「カラーゲーム」をする。

学級の各班（4～5人，6班）red,yellow,blue,green,black のカラーカードを配布し，一人一人自分の色を決める。①自分の色，②相手の色，と発音し，次の児童へとつなげる。
≪例≫自分が red の場合，「✋✋red，blue」。次の blue は「✋✋blue，yellow」と続けていく。

Looking Back

児童の様子を観察して，ゲームがスムーズに進行できるよう補助した。

○　担任が様子をコメントし，皆でふり返りをする。

児童の活動の様子で，よかったことやがんばったところを具体的に伝え，褒める。

3　成果と課題

カラーゲームでは，自分なりに色の単語を発音するだけでは，相手に伝わらない。そのため，相手にも伝わるようにはっきりと，ある程度の声の大きさで発音することが必要となる。班という少人数の中で，実施するゲームなので，児童も無理なく，盛り上がって活動していた。一人一人の目の前にカラーカードを置いて行うこと，ゲームを始める前に色ごとにもう一度発音すること，手拍子をゆっくりすること，などに注意して実施した。児童なりに無理なく色の発音をし，ゲームを行うことができた。

課題としては，自分の色の発音が不確かな児童が一人でもいると，その班のゲームはできなくなってしまうので，全体での発音練習を丁寧に行っていくことが大切だと感じた。個人差があるので，人によって色を変えて，変化をつけることも必要だと思った。これからも，身近な色の発音を，無理なく，楽しんで習得できるようにしていきたい。

授業実践カード　主体的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成のために！

1学年［　いろであそぼう　］（2/2）

1　目標

○　色の英語表現を聴いたり言ったりして慣れ親しもうとする。

2　展開

Warming up

T：Good morning.　How are you?
C：I'm fine./　I'm happy.
T：What's the weather today?
C：It's sunny.

毎回「あいさつ」と「天気」からはじめた。毎時間行っていることなので，児童も抵抗なく行っている。

Main Activity

Today's Goal

「いろをおぼえよう」提示

Today's Ward

red,pink,yellow,blue,green,purple,black,white,brown,orange のカラーカード提示

Game

①　「カラーゲーム」をする（前時の復習）。

学級の各班（4～5人，6班）red,yellow,blue,green,pink のカラーカードを配布し，一人一人自分の色を決める。①自分の色，②相手の色，と発音し，次の児童へとつなげる。
≪例≫自分が red の場合，「✋✋red，blue」。次の blue は「✋✋blue，yellow」と続けていく。

②　「カラーさがし」をする

学級の中にある red,yellow,blue,green,pink を探し，担任の指定した色を探し，タッチする。

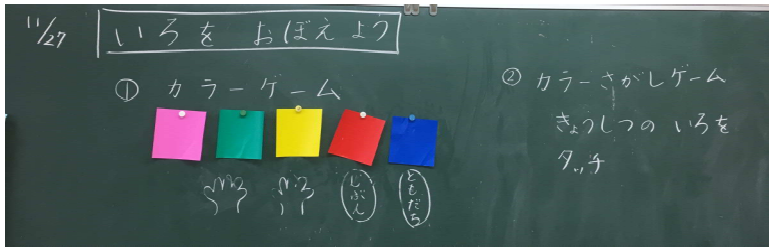
何回か繰り返して，ゲームのルールを理解したら，色を指定するのを，担任から児童に変え，児童自身が問題を出すようにした。

Looking Back

○　担任が様子をコメントし，皆でふり返りをする。

3　成果と課題

前時の復習から行ったことで，安心して児童が本時の活動に入っていけた。前時のカラーゲームでなかなかうまく発音できなかった児童も2時間目で，慣れもあったのか，自信をもって発音している様子が伺えた。また，班ごとのカラーゲームでは，前時と違う色を担当したことで，バリエーションを増やせたように思う。カラーさがしゲームでは，ただ聞いた色を探すだけでなく，探して触ったときに，その色を大きな声で発音させるようにした。リスニングだけでなく，言葉を発したことで，より定着につなげられたと感じた。



授業実践カード　主体的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成のために！

２学年［数の言い方を知ろう］（１/３）

ナンバーバスケットゲーム → マッチングゲーム①→ マッチングゲーム②

１　目標

○　数を表す表現を聴いたり，話したりして慣れ親しむ。

２　展開

Warming up

英語であいさつをすることで，英語あそびの時間への切り替えを行う。
楽しい時間の始まりを意識し，笑顔でスタートする。

○　担任とあいさつをする。

Good morning.
How are you?
I'm fine. Thank you, and you?

Main Activity

Today's Goal

「数の言い方に慣れよう」提示

数の学習であること，ゲームをする中でたくさん使う必要があることを確認する。

Today's Ward

１，２，３，４，５　のカードを提示

数の表現を「順に」「ランダムに」など繰り返し発音する。

Game

○　「ナンバーバスケットゲーム」をする。

学級活動でしたことのあるフルーツバスケット同様に，クラス全員で円になり，「one」「two」「three」「four」「five」と指定していく。教師が始めは鬼になり，真ん中に立ち，全員で１～５を言った後，鬼が好きな数字を言う。「one」と言われたら「one」のグループの児童が立ち，他の立った児童の椅子に座る。一人座れなかった児童が鬼になり，同じように続ける。全員を立たせたいときは「ナンバーバスケット」と言う。

児童の様子を観察し，スムーズに進行するようサポートする。

Looking Back

○　みんなで振り返りをし，感想を聴いたり，楽しさを共有したりしながら学習を締めくくる。

数字をたくさん言えたことを褒め，楽しい雰囲気で学習を締めくくる。

３　成果と課題

ナンバーバスケットゲームでは，一人だけが発音する事になりがちなので，まず全員で数字を言ってから鬼が好きな数字を言うようにした。児童は，楽しく元気にゲームに取り組みながら何度も発音をすることができた。今後は，数字カードを利用し，また違った形式で数の英語に親しむようにさせたい。

授業実践カード　主体的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成のために！

２学年［数の言い方を知ろう］（２/３）

ナンバーバスケット → マッチングゲーム①→ マッチングゲーム②

１　目標

○　数を表す表現を聴いたり，話したりして慣れ親しむ。

２　展開

Warming up

英語であいさつをすることで，英語あそびの時間への切り替えを行う。
楽しい時間の始まりを意識し，笑顔でスタートする。

○　担任とあいさつをする。
Good morning.
How are you?
I'm fine. Thank you, and you?

Main Activity

Today's Goal

「数の言い方に慣れよう」提示

数の学習であること，ゲームをする中でたくさん使う必要があることを確認する。

Today's Ward

１，２，３，４，５，６，７，８，９，１０のカードを提示

数の表現を「順に」「ランダムに」など繰り返し発音する。

Game

○　「マッチングゲーム」をする。

学級の各班（３～４人，６班）にナンバーカード（１～１０各２枚ずつ）を配布し，班の机上に裏返して置かせる。順番を決める。①１枚めくる②「one」と発音し，班員も確認のため「one」と言う。③２枚目をめくり「one」のときはもらえる。他の数字の場合はもらえないので，裏向きに戻す。④もらえても，もらえなくても次の人に交代する。

児童の様子を観察し，スムーズに進行するようサポートする。

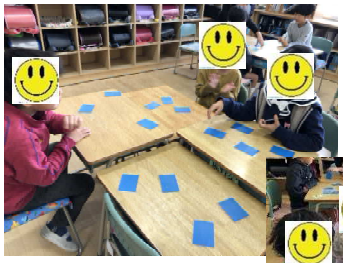
Looking Back

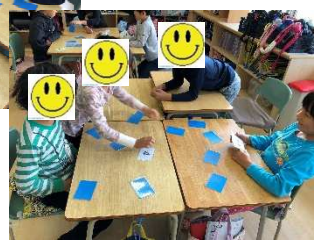
○　みんなで振り返りをし，感想を聴いたり，楽しさを共有したりしながら学習を締めくくる。

たくさん話したことを褒め，楽しい雰囲気で学習を締めくくる。

３　成果と課題

マッチングゲームでは，自身が発音するだけではなく，班員も一緒に発音することが必要となる。そのため時間いっぱい，児童の元気な声が聴かれた。枚数が限られているので，繰り返し何回もすることができた。今後，数を大きくしたり，数字カードを増やしたりして，無理なく取り組んで行きたい。





授業実践カード　「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子ども」の育成のために！

３学年「ALPHABET アルファベットとなかよし」（Let's try 1 Unit６）

１伝え合う必然性のある言語活動を意識した単元計画

単元の目標（学習目標）

〇相手に伝わるように工夫しながら，自分の姓名の頭文字を伝えようとする。【コ】

【（The "A"card)please.　Here you are.　Thank you.　You're welcome.】

〇アルファベットの大文字とその読み方に慣れ親しむ。【慣】

〇身の回りには活字体の文字で表わされているものがあることに気付く。【気】

児童の単元 Goal＝言語活動の目的（学習手段）

目「イニシャルで名刺こうかんしよう！」

→活 自分のイニシャルをお買い物ごっこで買って、イニシャル名刺を作る。そのカードをお互いに交換し合う。

① アルファベットの大文字の読み方を知ろう。

②自分の名前の頭文字（イニシャル）を知ろう。

③名刺を作るために，友だちとやり取りをして，頭文字（イニシャル）を集めよう。

本時　④名刺をわたしながら，自分の頭文字（イニシャル）を伝え合おう。

視点(2)目標を見据えた指導
最終ゴール「単元目標」を見据え，そこから言語活動する目的になり得る，子どもにとってやり取りする必然性のある言語活動をイメージした。

視点(1)目的・場面・状況を意識した言語活動
児童が興味・関心をもち，やりたいという意欲をもてる内容で，実際に体験的な活動につながる言語活動を設定した。

視点(3)本物のやり取りを大切にした授業
自分のイニシャルをお店屋さんで買う活動を取り入れた。お店屋さんに欲しいアルファベットがない場合もあることが，児童からは，本物の喜びの声や落胆の声，お店屋さんの申し訳なさそうな Sorry を聞くことができた。より実生活に結びついた経験となった。

視点(2)目標を見据えた指導
単元のゴールに向かうために，学ぶべき必要なことを児童と確認しながら，無理のないステップで進めた。

２本時の学習記録

Warming up

Greetings
Sing
ABC song
Game
Bingo Game　O～Z

視点(４)無理のないステップを踏んだ指導
前時までに十分聞く活動を行い，ゲームやチャンツで発話に慣れさせた。本時のやり取りだけでなく，前時のお買い物ごっこでも同じ表現を使っているので，自信をもって発話している児童が多かった。

前時の Bingo では，A～N までを行った。

Main Activity

Today's Goal
「自分のイニシャルを伝え合おう」

Communication Game

やり取りする前に，どんな風にしたらより相手に伝わるかを確認した。

「名刺をわたしながら，自分のイニシャルを伝え合おう」

自分の名前とイニシャルを紹介しながら，名刺を交換し合った。「会話の初めと終わり」「ゆっくりはっきりジェスチャー」の他にも「スマイル」「アイコンタクト」をすると良いとの声が児童から出た。

「Hello. I'm ～ .」「"O"and"△".」「Here you are.」「Thank you.」「You're welcome.」「Bye.」

児童が言語活動の見通しをもてるように，教師がデモストレーションを示した。（教師も自分の本当のことを表現する。）

児童の様子を観察しておき，「言語活動→指導→言語活動」というように，言語活動に指導を挟み，フィードバックできるようにした。

視点(3)本物のやり取りを大切にした授業
同じイニシャルの人がいたら，驚きながら Me too!と表現していた。習った表現を使って本当の自分の思いを表現できた子どももいた。

Looking Back

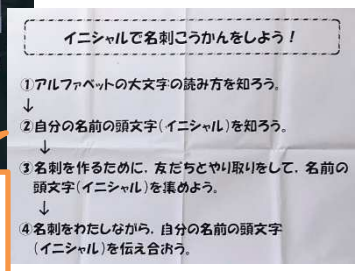
Write comment

言語活動の感想を児童に発表してもらってから，教師からみた活動の様子についてコメントをした。児童はその後，自分の振り返りシートに振り返りを記入した。

3 最終板書

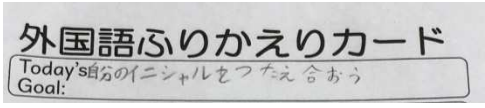
やり取りする前に，どんな風にしたらより相手に伝わるかを確認した。

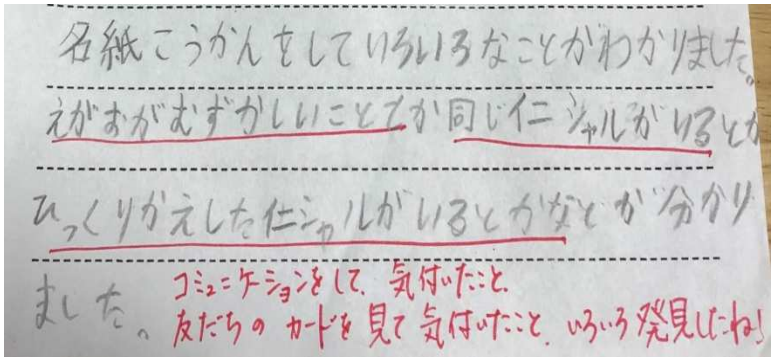
Today's Goal ,Today's menu の提示



視点(1) 目標を見据えた指導
単元 Goal までの流れを具体的に意識させ，児童と共有した。

4 実践を終えて





成果と課題

○児童たちは自分のイニシャルには特別な思いがあり，イニシャルを集め，名刺交換することにはみんな意欲をみせたので，名刺交換を言語活動の目的と設定したのは良かった。

○聞く活動やチャンツ，歌，ゲームなどで，十分に表現に慣れ親しませたことから，名刺交換の時には，自信をもって発話している児童が多かった。発話できない友だちに，教える姿も見られた。

○5 枚のカードを交換する相手を，1 枚→隣同士で，残りは 2 Boys 2 Girls と指定したため，いろいろな友だちと関わることができた。授業参観で扱ったため，お父さんやお母さんと交換し合う場面も見られ楽しい雰囲気だった。

○同じイニシャル，また自分と反対のイニシャルの人がいることなど，文字に関することに気付いた。

▲ジェスチャーやスマイル，アイコンタクトはより相手に伝わりやすくするのに有効だと考えたが，実践に移すことが難しいようだった。

授業実践カード　「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子ども」の育成のために！

４学年「好きな曜日は何かな」（Let's try 2 Unit 3　）

１伝え合う必然性のある言語活動を意識した単元計画

単元の目標（学習目標）

○世界の同世代の子供たちの生活を知り，曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。【気】【慣】

○自分の好きな曜日について，尋ねたり答えたりして伝え合う。【コ】

【Do you like　～？Yes, I do. / No, I don't.】

○相手に配慮しながら，自分の好きな曜日を伝え合おうとする。【コ】

児童の単元 Goal＝言語活動の目的（学習手段）

目「友達が好きな遊びをランキングしよう。」

→活好きな遊びを尋ね合い，どんな遊びが好きなのかを知り，レクレーションの種目を決める。

視点(１)　目的・場面・状況を意識した言語活動
児童が実際の場面で活用するために，知りたいと思える言語活動を設定した。

① 曜日の言い方を知り、好きな曜日を尋ねたり答えたりしよう。

視点(４)無理のないステップを踏んだ指導
チャンツやゲームにより曜日の言い方や Do you like　～？Yes, I do. / No, I don't.のやり取りに十分慣れさせた。

②１週間の予定を聞き，遊びに誘おう。

本時　③好きな遊びを尋ね，好きな遊びランキングを作ろう。

視点(２)　目標を見据えた指導
好きな曜日を尋ねる表現に慣れ親しんだ後で，好きな遊びを尋ねる表現にも変えられることをとらえさせた。

視点(３)　本物のやり取りを大切にした授業
全員の好きな遊びを聞いて，次の学級レクレーションで取り入れる遊びを決めていくことにした。人気があると思っていた遊びに "No,I don't."と答えが返ってくると，意外に思いながらも，改めて相手のことを知り新鮮な思いをもった様子だった。

２本時の学習記録

Warming up
Greeting
Chant
Review

Main Activity
Watch&Think
Communication

好きな曜日を尋ねるやり取りから、好きな遊びを尋ねるやり取りへスムーズに移行するために、「Watch & Think」で表現に慣れさせた上で，確認した。

Looking Back
Write comment

コミュニケーションでは，"Hello."で始まり，"Thank you."で終わることを意識させた。

「好きな遊びを尋ね，好きな遊びランキングを作ろう。」

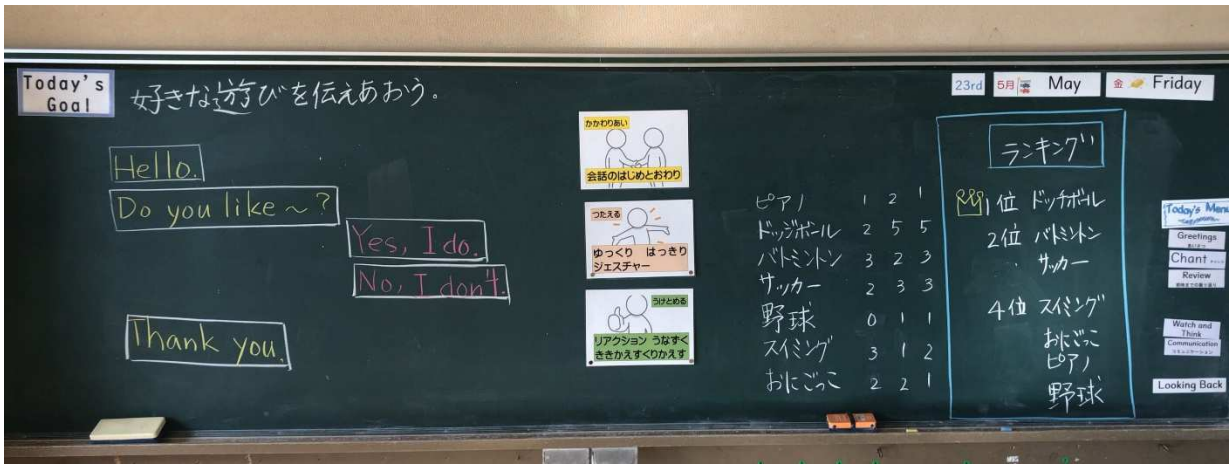
好きな曜日を尋ねたり答えたりする表現に十分に慣れ親しんだ上で，遊びに誘う言い方を学習している。そこで，好きな曜日を好きな遊びに変えて尋ね合い，ランキングにして，次のレクレーションを決めることにした。

次のレクレーションの遊びをランキングで決めるので，自分の好きな遊びには“Yes, I do.”の返事を期待しながら尋ねる。そのことが意欲的な活動につながった。

レクレーションのサッカー・ドッジボール・おにごっこなどの遊びについて一人ひとりに，“Do you like ～？”と尋ねることで多くの友達と繰り返しコミュニケーションが取れるようにした。

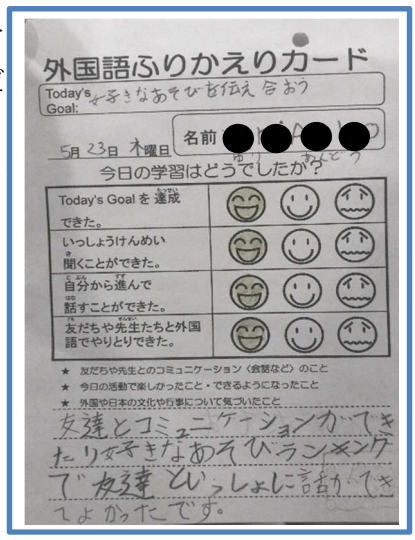
会話を聞くグループを作り，友達のやり取りを聞きながら，やり取りの仕方を学べるようにした。

３最終板書



４実践を終えて

- 好きな遊びを尋ね合う活動は，関心が高く積極的なやり取りがみられた。学級のレクレーションに取り入れるということで，是非自分の好きな遊びがランキング上位にはいってほしいという思いから，必然性をもってやり取りを繰り返していた。
- 会話を“Hello.”で始め，　”Thank you.”で終わることは，繰り返すことで身につきつつある。本時では，好きな遊びについての話題なので，自然に相手の顔を見て笑顔でやり取りが行われた。全員に聞く必要があるので，尋ねるグループ・答えるグループ・会話を聞くグループに分けて活動を行った。友だちのやり取りを聞く活動が設定できたことで，やり取りを確認したり，友だちのやり取りから学んだりすることができた。
- 友だちの質問に答えることで，自分の好きな遊びを伝えることができ，多くの子が達成感を感じていた。また，意外な返答が返ってきたときには改めて相手の好きな遊びを知り，新たな一面を見つけたことに新鮮な驚きを感じている様子があった。



授業実践カード　「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子ども」の育成のために！

４学年「　What do you want?　」（　Let's try 2 Unit7　）

１伝え合う必然性のある言語活動を意識した単元計画

単元の目標（学習目標）

○食材の言い方や，欲しい物を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。【慣】

○欲しい食材などを尋ねたり要求したりするとともに，考えたメニューを紹介し合う。【コ】

○相手に配慮しながら，自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。【コ】

児童の単元 Goal＝言語活動の目的（学習手段）

㊐相手に配慮しながら，自分のオリジナルのメニューを紹介しよう。

→㊥友達とお店ごっこを通して，欲しい物を尋ねたり要求したりしてオリジナルのパフェやピザを作り，紹介し合う。

視点(２)　目標を見据えた指導

単元のゴールに沿った言語活動を設定した。

① 食材の言い方や，欲しいものを尋ねる表現を知ろう。

②欲しいものを尋ねたり要求したりする表現を知ろう。

③ペアで欲しいものを尋ねたり要求したりしてパフェを作ろう。

④ペアで欲しいものを尋ねたり要求したりしてピザを作ろう。

本時　⑤自分のオリジナルピザを紹介しよう。

視点(１)　目的・場面・状況を意識した言語活動

自分が欲しい食材を揃える活動を設定し，「What do you want?」や「I want 果物の名前」の表現を自然に使えるようにした。

視点(４)　無理のないステップを踏んだ指導

前時で学習した欲しい食材などを尋ねたり要求したりする表現や，果物の名前をダン先生と復習し，ペアでやり取りする練習を行った。

視点(３)　本物のやり取りを大切にした授業

お店ごっこをする際には，自分が欲しい食材が売り切れていることも想定し，お店役とお客役とでジェスチャーを交えて「Sorry, Nothing.」などの簡単な英語でやり取りをさせた。

２本時の学習記録

Warming up

Greeting
Chant

単元を通してのキーワードとなる「What do you want?」のチャンツを毎時間 Warming up で歌った。速さの遅い歌と速い歌を歌うことで，楽しみながら歌う様子が見られた。

Main Activity

Today's Goal

「自分のオリジナルピザを紹介しよう。」

(紹介例)

This is my pizza, 名　　前．

I have ～．(ピザ生地に乗っている４種類の具材を紹介する)

This is for 誰　　か．

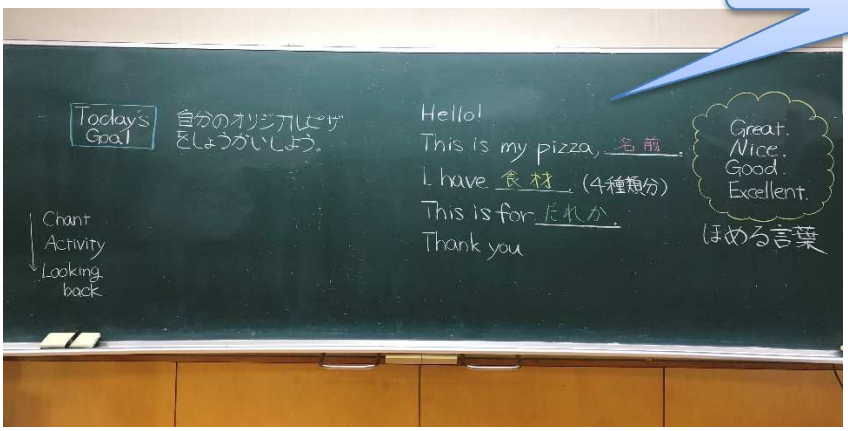
Thank you.

自分のオリジナルピザを紹介する際の発表の流れを板書し，ダン先生に発表のデモンストレーションを行ってもらった。また，聞いている側も「Great!!」「Nice!!」「Wonderful!!」「Excellent!!」などの肯定的な反応をするように場を設定した。

Looking Back

「振り返りカード」への記入を通して，本時の成果と課題を振り返らせた。

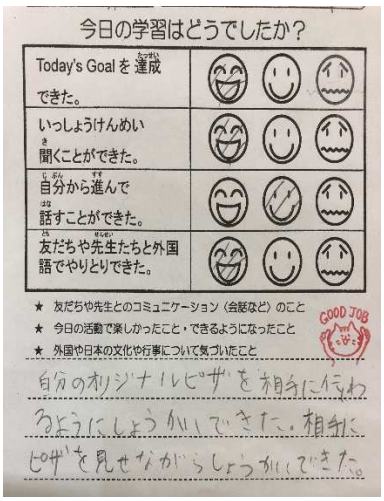
３最終板書

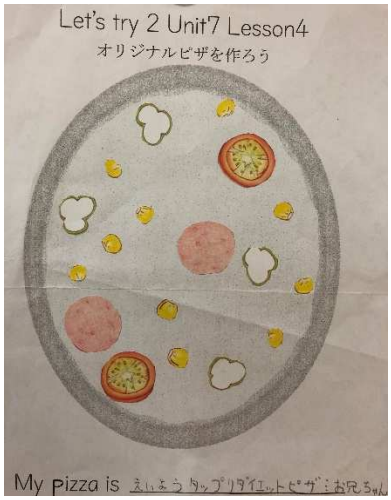


発表する内容を簡単に板書した。

肯定的な反応例をいくつか示した。

４実践を終えて





○ピザに乗せる食材を，誰にプレゼントするピザなのかを考えて選んでいた。

○チャンツやダン先生とのやり取りを通して，欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に十分に慣れ親しんでから行えた。子どもたちは自信をもって友達とのやり取りやピザの紹介を行えていた。

▲ピザを紹介する際に，板書に書いてある文を読みながら発表する子がいたので，発表の練習をした後に消しておく方が良かった。

授業実践カード　「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子ども」の育成のために！

5 学年「I want to go to Italy.」（We can 1　Unit6　）

1 伝え合う必然性のある言語活動を意識した単元計画

単元の目標（学習目標）

○自分の思いがはっきり伝わるようにおすすめの国について発表したり，友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。【コ】

○行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。【慣】

【Where do you want you go?　　I want to go to ~.】

○世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。【気】

児童の単元 Goal＝言語活動の目的（学習手段）

㊐世界の国々の文化や生活を知り，おすすめの国について紹介し合おう！

→㊥自分が行きたい国の特徴について伝え合い，友達のアドバイスをいかして，よりよい旅行プランを作成・発表する。

視点(1)
目的・場面・状況を意識した言語活動
児童が興味・関心をもち，体験的な活動ができる言語活動を設定した。

① 世界の様々な国の生活について知ろう。

視点(2)目標を見据えた指導
様々な国の人々が，様々な生活をしていることに児童が自ら興味関心をもって気付けるよう映像を用いた活動をした。

②行きたい国について伝え合おう。

③どこの国に行きたいか聞き合おう。

④おすすめの国について伝え方を知ろう。

⑤おすすめの国について伝え合おう。

視点(4)無理のないステップを踏んだ指導
プランを作成する前に，行きたい国についての聞き方や伝え方を習得させた。また既習事項を使い，その国を選んだ理由の伝え方についても習得させていった。

本時

⑥おすすめの国についてのプランの方法を考えよう。

⑦他者に配慮しながら，プランを提案する練習をしよう。

⑧おすすめの国について提案し合おう。

視点(1)目的・場面・状況を意識した言語活動
この活動が誰と何のために伝え合うものなのか意識させ，単元目標達成につながるようにした。

2 本時の学習記録

Warming up　Today's Menu

Small talk

Let's Chant

あえて相手意識を持たずに担任が「Small talk」を行い，「Let's Watch and Think」でポイントに気づきやすくさせた。

Main Activity　Today's Goal

「おすすめの国についてのプランの方法を考えよう。」

Activity

Let's Watch and Think

「Communication」の際に意識するポイントを考えながら聞き取りをさせた。

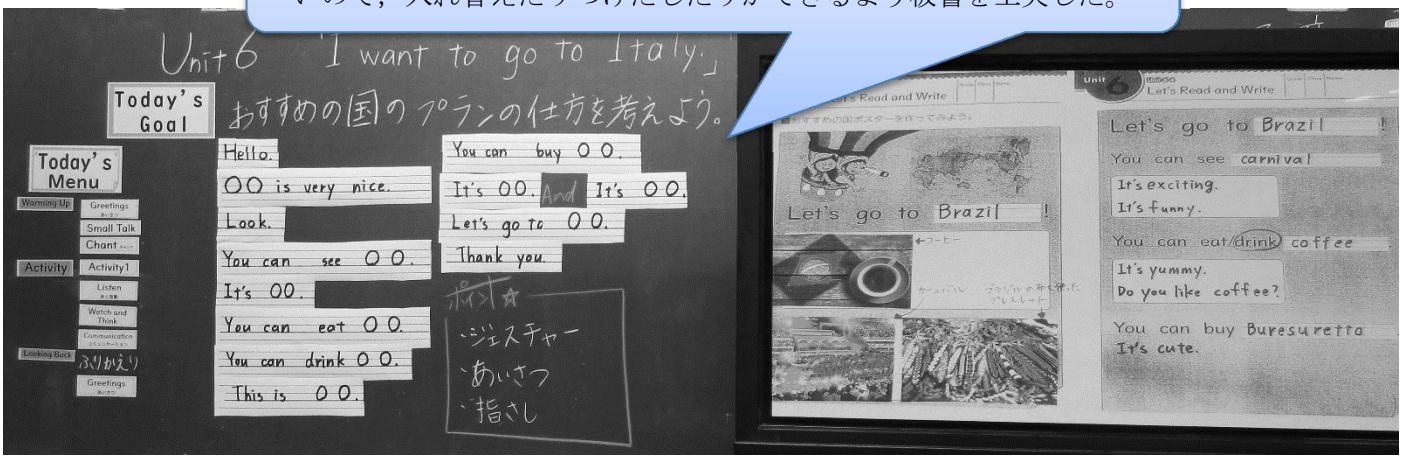
Communication

Looking Back 自分のふり返りシートにふり返りを記入する。

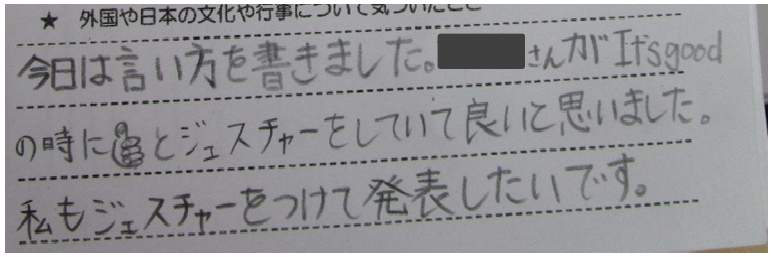
Communication の際に意識するポイントを引き出す。
① ジェスチャー
② あいさつ
③ 指さし確認

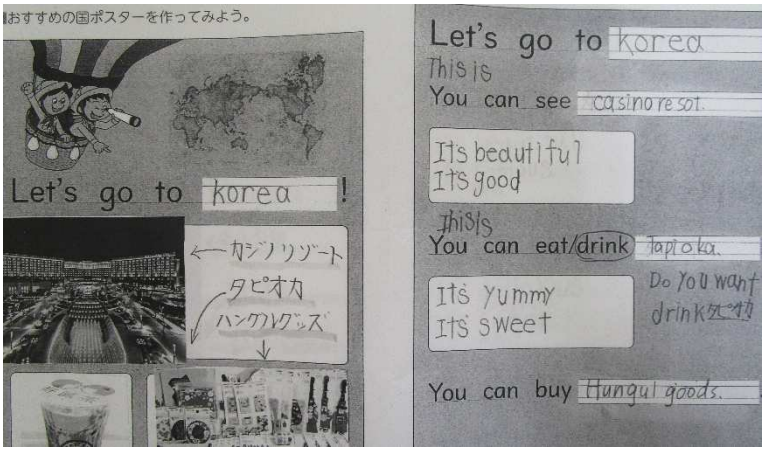
３最終板書

プランを行う際のアピールポイントを伝える順番は自由に考えさせたいので，入れ替えたりつけたしたりができるよう板書を工夫した。



４実践を終えて





成果と課題

○指導者や教材の伝え方から相手意識をもった伝え方の方法を学び，相手意識を持ちながらコミュニケーションをとることができていた。

○友だちとプランを伝え合うことで，よいところやまねしたいところを見つけ，互いに学び合うことができた。

○無理のないステップを踏みながら，プランを伝える方法を習得していくことで自信をもって発表することができた。

○インターネットを用いておすすめの国について詳しく調べたことで，既習事項をたくさん使って工夫しながら，より良いプランをし，友だちが行きたくなるような伝え方をしたいという思いが芽生えた。

▲聞き手側の聞くポイント(①繰り返す②うなずく③反応する)も行ったが，聞き取りことに一生懸命になり，実践できている児童が少なかった。

授業実践カード　「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子ども」の育成のために！

5 学年「I want to go to Italy.」（We can 1　Unit6　）

1 伝え合う必然性のある言語活動を意識した単元計画

単元の目標（学習目標）

○自分の思いがはっきり伝わるようにおすすめの国について発表したり，友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。【コ】

○行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。【慣】

【Where do you want you go?　　I want to go to ~.】

○世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。【気】

児童の単元 Goal＝言語活動の目的（学習手段）

㊐世界の国々の文化や生活を知り，おすすめの国について紹介し合おう！

→㊥自分が行きたい国の特徴について伝え合い，友達のアドバイスをいかして，よりよい旅行プランを作成・発表する。

視点(1)

目的・場面・状況を意識した言語活動

児童が興味･関心を持ち,体験的な活動ができる言語活動を設定した。

① 世界の様々な国の生活について知ろう。

②行きたい国について伝え合おう。

③どこの国に行きたいか聞き合おう。

④おすすめの国について伝え方を知ろう。

⑤おすすめの国について伝え合おう。

⑥おすすめの国についてのプランの原稿を作ろう。

⑦他者に配慮しながら、プランを提案する練習をしよう。

本時 ⑧おすすめの国について提案し合おう。

視点(2)目標を見据えた指導

様々な国の人々が,様々な生活をしていることに児童が自ら興味関心をもって気付けるよう映像を用いた活動をした。

視点(4)無理のないステップを踏んだ指導

プランを作成する前に,行きたい国についての聞き方や伝え方を習得させた。また既習事項を使い,その国を選んだ理由の伝え方についても習得させていった。

視点(1)

目的・場面・状況を意識した言語活動

この活動が誰と何のために伝え合うものなのか意識させ,単元目標達成につながるようにした。

２本時の学習記録

Warming up　Today's Menu

Small talk

Main Activity　Today's Goal

「おすすめの国の紹介をしよう。」

Jingle

Activity

「ALT との役割分担」に関する工夫
聞き役に徹して,お勧めの国情報を予定していたもの以外のことでも聞き出すようにした。

Activity

「板書」に関する工夫
世界地図を示しながら,お勧めの国について「行きたい国ランキングの投票」を行い,行きたくなった国と理由が紹介できるようにした。

Looking Back　自分のふり返りシートにふり返りを記入する。

３最終板書

４実践を終えて

金曜日の外国語の授業で自分のお勧めの国をいろいろな人に紹介する勉強をしました。ぼくは，フランスのことを書き，エッフェル塔やクロワッサン・チョコなどを調べて，皆に紹介しました。ぼくは，前半に友達のスピーチを聞き，後半にスピーチをやりました。後半，先生にスピーチを言い，少し緊張しましたが，ちゃんとスピーチできて良かったです。１１人もぼくの所に来てくれてうれしかったです。（12/6）

成果と課題

○外国語に慣れ親しみ，様々な活動に興味関心を持てる子ども（主体的に学ぶ力）（４）

外国を旅行社としてツアー紹介する設定で，興味深く課題に取り組んでいた。全８時間の構成で,外国の紹介内容を調べ,掴む時間がもう少し欲しかった。紹介内容を具体的なポスターなど視覚化するなど資料の準備が大切であったが,十分に用意されていたとは言い難かった。

○自分の思いを伝えられ，達成感を感じられる子ども（自己実現しようとする力）（３）

紹介する国を多くの子どもがポスターセッションで聞いてくれたことで,達成感を持った子どもが多くいたが,紹介内容に対する自分のうなづきはできても,紹介された子どもが相槌をうって,ポスターを見て紹介された内容に質問をすることがなかなかできていなかった。会話として成立していないことの方が多かった。

授業実践カード　主体的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成のために！

ひまわり・たんぽぽ学級［Happy　Halloween］(2/2)

1　目標

○　ハロウィンの行事について知り，英語表現を聴いたり言ったりして慣れ親しむ。

2　展開

Warming up

簡単な挨拶を普段から英語で行うようにしている。抵抗なくスタートできている。

○　担任とあいさつをする。
Hallo.
How are you?
I'm fine. I'm good.など

毎年ハロウィンを行っている。今年も楽しいハロウィンパレードを行うことを伝え，必然性を持たせた。

Main Activity

Today's Goal
「ハロウィンパレードをしよう」提示

Today's Ward
Jack-o-lantern vampire owl witch crow など

ハロウィンに関係する英語を児童から挙げさせた。「Happy　halloween」「Trick or treat」「pumpkin」「ghost」など。その後教師が「jack-o-lantern」などを紹介し，確認した。

Practice

○　「ハロウィンパレード」をする。

ハロウィンのコスチュームを着け，職員室までを行進する。職員室の先生方と「Trick or treat」や「Happy Halloween！」のやりとりをし，自分たちで作った『パンプキンクッキー』をプレゼントする。お返しに先生方から，おかしをもらう。「Thank you」と言って戻る。

先生方に協力していただき，しっかり言えた児童におかしを渡してもらった。実態により，付き添いの教師が一緒に言った。

Looking Back

○　教室に戻り，パレードの振り返りや先生方とのやりとりで良かったことを確認した。

全員ががんばって言おうとしていたことを評価し，ハロウィンパレードと，英語で話す楽しさを共有した。

3　成果と課題

毎年行っている行事であるが，目標を外国語に意識を向けるようにしたことで，児童が積極的に声に出して言おうとしていた。相手を意識して，話すこともできていた。ハロウィン自体の会話のバリエーションが少ないためやりとりの深まりはあまりないが，児童の実態を考えるとちょうど良いように思う。

授業実践カード　「主体的にコミュニケーションを図ろうとする子ども」の育成のために！

たんぽぽ学級「英語を使って朝の会をしよう」

１伝え合う必然性のある言語活動を意識した単元計画

単元の目標（学習目標）

〇英語を使って朝の会の進行をしたり，自分の体調を伝えようとしたりする。【コ】

〇朝のあいさつ，曜日，日付，天気，体調を表す言い方に慣れ親しむ。【慣】

児童の単元 Goal＝言語活動の目的（学習手段）

目「英語を使って朝の会をしよう」

→活毎日の朝の会を英語で進行する。

①英語での朝の会の流れを知ろう。

視点(４)無理のないステップを踏んだ指導
すべて英語ではなく，日本語も交えながら朝の会を進めていくことを確認し，無理なく英語に親しめるようにした。

②曜日の言い方を知ろう。

③日付の言い方を知ろう。

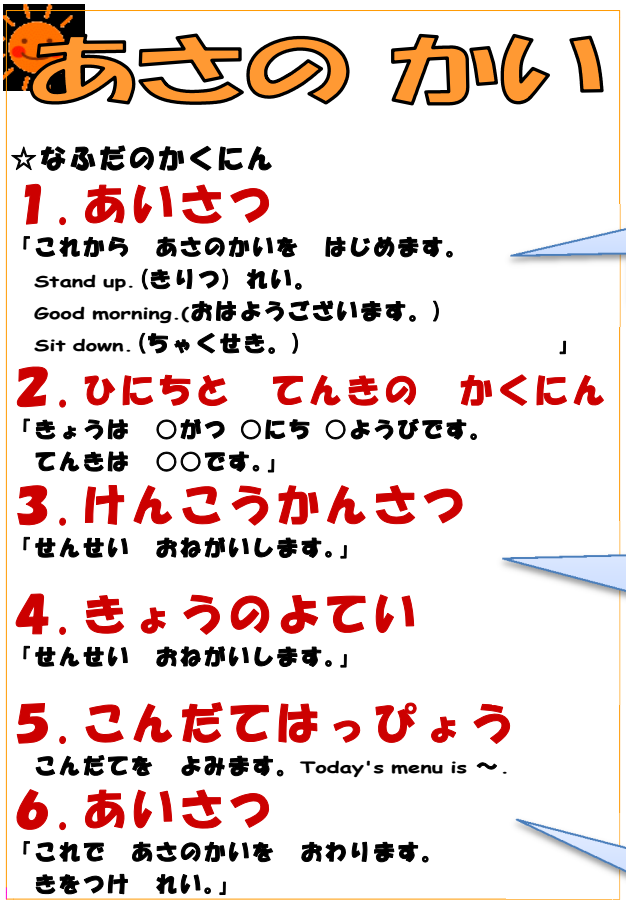
④体調を表す言い方を知ろう。

視点(３)本物のやり取りを大切にした授業
健康観察の際に，その日の体調を英語で伝えるだけではなく，教師からの簡単な英語での質問に答えることで，やり取りする楽しさを感じられるようにした。

⑤英語を使って朝の会をしよう。

視点(１)目的・場面・状況を意識した言語活動
あいさつ，体調を表す表現など，日常会話で使う表現を，子どもたちが自然に活用できる場面を設定した。

２本時の学習記録


あさの かい

☆なふだのかくにん

1．あいさつ

「これから　あさのかいを　はじめます。
Stand up.（きりつ）れい。
Good morning.（おはようございます。）
Sit down.（ちゃくせき。）」

2．ひにちと　てんきの　かくにん

「きょうは　○がつ ○にち ○ようびです。
てんきは　○○です。」

3．けんこうかんさつ

「せんせい　おねがいします。」

4．きょうのよてい

「せんせい　おねがいします。」

5．こんだてはっぴょう

こんだてを　よみます。Today's menu is ～.

6．あいさつ

「これで　あさのかいを　おわります。
きをつけ　れい。」

簡単な表現は英語で伝えることができるようにした。

子どもたちの言葉に教師がリアクションし，コミュニケーションを楽しむことにつなげられるようにした。

朝の会の流れを提示し，見通しをもって進行できるようにした。

３板書

月と曜日を表す表現を黒板に提示し，いつでも目につくようにした。

４実践を終えて

発達段階が様々であり，外国語活動に苦手意識をもつ児童もいたため，毎日行う朝の会で，英語を繰り返し活用し，児童が英語を少しでも身近に感じることができればと思い，実践した。

曜日，日付，天気を表す言い方は，あっという間に覚え，その日の日直が困っていると，「今日は Thursday だよ。」などと，助ける姿がみられた。また，天気の確認の際には，「Sunny？Cloudy？あ，Sunny＆Cloudy って言えばいいのかな。」のように主体的に考え，活用しようとしていた。健康観察では，その日の体調を英語で言うだけではなく，教師とのやり取りも少しずつできるようになってきた。言い方が分からない表現も全体に問いかけたり，教師が示したりすることで言えるようになり，うれしそうな姿がみられた。献立の確認では，「rice や milk」など知っている単語を使ってメニューを発表する児童もいた。食べ物の単語は，知っているものが多かったのか意欲的に英語を使っているように感じた。

最初は，英語での朝の会に戸惑う児童もいたが，毎日同じような内容を繰り返し行うことによって自信をつけ，今では進んで取り組む姿がみられる。朝の会が終わってからも，先生「霧って英語で何て言うの？」など英語に興味をもつ児童もいた。朝の会という短時間の中でも毎日活用することで英語を身近に感じることにつながると改めて感じた。

６学年「児童会活動を通して全校に英語を広めよう」

１伝え合う必然性のある言語活動を意識した単元計画

単元の目標（学習目標）

○他者に配慮しながら，日常生活の中で身近で簡単な事柄を伝えようとする。【コ】
○児童会活動の常時活動や行事の中で，伝え合う表現に慣れ親しむ。【慣】
○児童会の中には，様々な文化や母国語をもつ児童がいること知り，英語と日本語の両方で伝える活動を通して，言葉の多様性に気付く。【気】

児童の単元 Goal＝言語活動の目的（学習手段）

目「全校のみんなに英語に親しんでもらおう！」
→活児童会活動の中で英語を使える場面を探し，英語で表現してみよう。

①既習の英語をふり返り，児童会活動や委員会活動で英語が使える場面を検討しよう。

②英語で伝えるために英文をつくってみよう。（ALT にチェックしてもらう）

③実際に児童会活動や委員会活動で英語を使って活動してみよう。

視点(２)目標を見据えた指導
外国語の授業で学んだことを生かして，６年生として全校のみんなに英語に慣れ親しんでもらえることを考えさせた。

視点(３)本物のやり取りを大切にした授業
委員会活動で実践するために授業で習った表現をふり返ったり ALT に表現を教わったりして，英語を使う必然性がある活動を設定した。

視点(４)無理のないステップを踏んだ指導
日常的に行っている慣れ親しんだ言語活動を英語化させることにより，話しやすく聞きやすい活動にした。

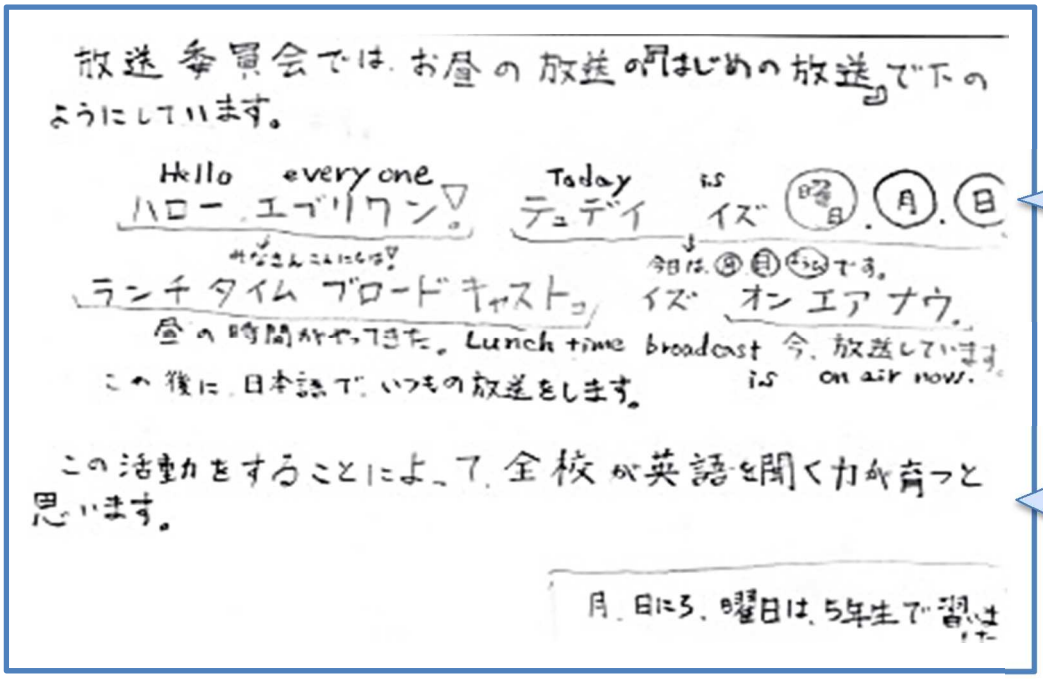
２実践

児童会

レッツクリーンタイムの放送
「児童会かられん絡です。
英 Hello everyone. Today is「レッツクリーンタイム」Let's pick up school trash.
(Let's clean time)
日 今日は、レッツクリーンタイムの日です。校庭にいる人は(場所)のゴミを、校舎内にいる人は(場所)のゴミをひろいましょう。」
(くり返す)〈英→日→英→日〉
毎週木曜のロング休み。

視点(１)目的・場面・状況を意識した言語活動
児童会として，どんな願いをもって活動するのかを明確にさせることで主体的な実践を促した。

低学年には、この放送を通して英語や世界に興味を持ってほしい。
高学年には、放送を聞いて学んだ英語を日常生活にどうやったら活かせるか考えてほしい。


放送委員会では、お昼の放送の『はじめの放送』で下のようにしています。

Hello every one
ハロー エブリワン!
みなさんこんにちは!

Today is
テュデイ イズ 曜日 月 日
今日は、月 日 ようびです。

ランチタイム ブロードキャスト イズ オン エア ナウ。
昼の時間がやってきた。Lunch time broadcast is on air now.
今、放送しています。

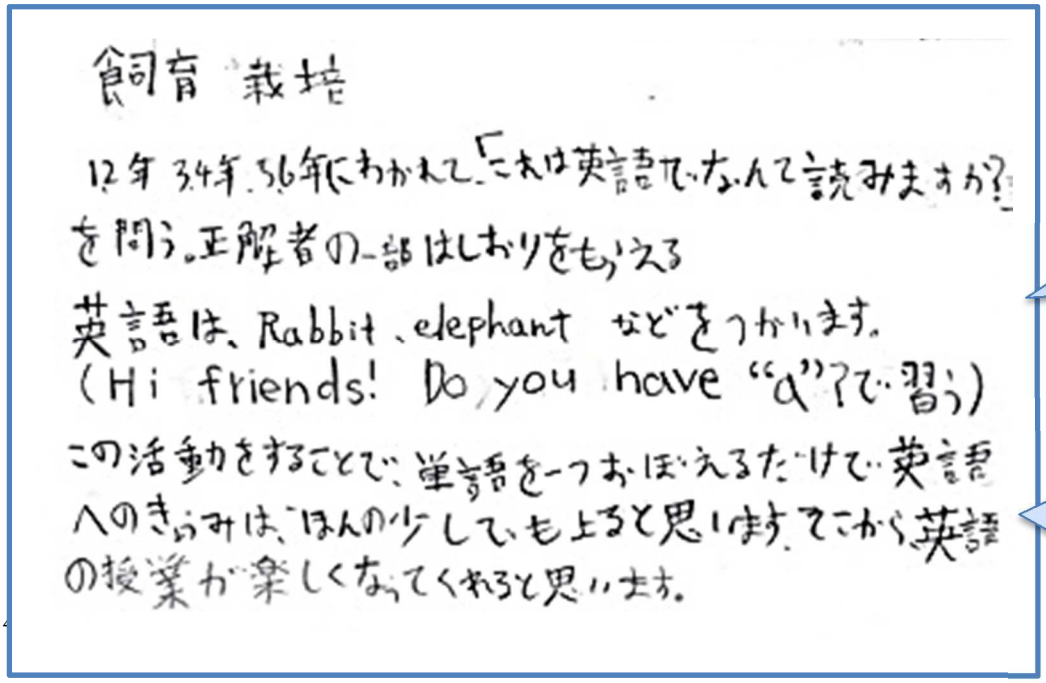
この後に、日本語で、いつもの放送をします。

この活動をすることによって、全校が英語を聞く力が育つと思います。

月、日にち、曜日は、5年生で習いました

月・日・曜日の既習表現を使っている。

毎日くり返し放送することで，相手の聞く力を伸ばすことを目的にしている。


飼育 栽培

1.2年 3.4年 5.6年にわかれて「これは英語でなんて読みますか?」を問う。正解者の一部はしおりをもらえる

英語は、Rabbit、elephant などをつかります。
(Hi friends! Do you have "a"?で習う)

この活動をすることで、単語を一つおぼえるだけで英語へのきらみは、ほんの少しでも上ると思います。そこから英語の授業が楽しくなってくれると思います。

動物の名前の既習表現を使っている。

英単語を覚えることを通して，相手の興味関心を高めさせることを目的にしている。

３実践を終えて

本実践は，「外国語科で身に付けた資質・能力を児童会活動の自発的・自治的な活動によりよく活用すること」，「児童会活動で身に付けた資質・能力を外国語科の学習に生かすこと」を通して，本校が目指す児童像を具現化しようとするものである。

児童会活動では，一年間を通して６年生同士が協働し，主体的に全校のために活動してきた。これには外国語科によって育てたい力である「主体的に学ぶ力」「相手意識をもち，人と関わり学び合う力」「自己実現しようとする力」の三つの要素が含まれている。伝える活動が双方向にできなかったという課題は残ったが，外国語科と児童会活動をコラボレーションすることで，『主体的にコミュニケーションを図る子どもの育成』の一助となった。